

## 新潟市オムニバスタウン計画の概要

### 1. 計画策定の背景

新潟市は、国際空港や特定重要港湾、新幹線、高速道路網などが整備された交通拠点であると同時に、国内最大の水田面積を有する大農業都市であり、人口は80万人を超え、平成19年4月には日本海側初の政令指定都市となった。

市民生活を支える公共交通としてはJRとバスが機能しているものの、新潟市においてもマイカーの急速な普及は例外ではなく、交通渋滞の発生、交通事故の増加、排気ガスによる環境問題など様々な課題をもたらしている。特に、交通渋滞に伴う旅行速度の低下は、バスの定時性や速達性を低下させ、利用者のバス離れやそれに伴うバス路線の廃止・減便をまねき、利用者は4年間で約1割（380万人）減少とその落ち込みが顕著となっている。

新潟市では、少子・高齢化社会を迎え、市民のモビリティを維持・確保していくためには、バスが中心的な役割を担うことが不可欠と考え「オムニバスタウン計画」を策定し、関係者が連携してバスの利便性・快適性の向上に積極的に取り組み、人・まち・環境にやさしい「バス」への利用転換を促すとともに、あわせて、新潟市の都心部の賑わいを創出する基幹公共交通軸の形成を促進することを目指している。

### 2. 新潟市オムニバスタウン計画の特徴となる施策

- (1) 公共車両優先システム（PTPS）の充実
- (2) バス停の改善（上屋整備、バス停の集約化）
- (3) にいがた基幹バスの新設
- (4) ICカードの導入
- (5) バス路線の再編
- (6) ノンステップバス等の導入
- (7) バスロケーションシステムの充実

### 3. 事業概要（平成19～23年度）

#### (1) バス走行環境の改善

- ① 公共車両優先システム（PTPS）の充実：国道116号、113号等
- ② 道路整備・道路改良の促進：国道7号万代橋下流橋、弁天線等

#### (2) バス交通円滑化のための交通施設等の整備・改善

- ① 市役所周辺ミニバスターミナル化
- ② バス停上屋の整備：国道7号、116号、弁天線、鳥屋野潟公園線等

#### (3) バスの利便性等の向上

- ① にいがた基幹バスの新設  
新潟駅～万代・古町～市役所・白山～県庁及び新潟駅～新市民病院にノンステップバスを大量投入するとともに、高機能な車両（ハイブリッドバスや連節バスを検討）の導入を検討
- ② ICカードの導入
- ③ 快速便の拡充検討
- ④ バス路線の再編：東新潟方面、南新潟方面
- ⑤ 乗継割引の導入（ICカード導入にあわせ）
- ⑥ モーニングライナー&ワンコインバスの充実  
モーニングライナー：市内各方面～学校町方面  
ワンコインバス：新潟駅～万代エリア等
- ⑦ ノンステップバス等の導入促進：  
ノンステップバス等を110台導入、バリアフリー対応車両導入率50%
- ⑧ 案内表示板の設置：市役所周辺、古町、万代、新潟駅南口等
- ⑨ にいがたバスーiの機能強化：バリアフリー情報の提供
- ⑩ バスロケーションシステムの充実：弁天線、鳥屋野潟公園線等
- ⑪ 1Dayチケットの創設：市内線等
- ⑫ 実証実験の実施：サイクル&バスライド、区バス、深夜バス等

#### (4) バスの社会的意義の認識高揚

- ① オムニバスタウンのシンポジウム、インターネット、パンフレット等の広報活動